

科目名	建築学概論	科目コード 51600
-----	-------	----------------

学科名・学年	環境都市工学科 4 学年 (プログラム 1 学年)	担当教官	西村伸也		
単位数	1 単位・選択	開講期間	前期	時間数	30 時間
				内訳 <small>(時間)</small>	講義(30), 演習(0) 実験(0), その他(0)
教科書	適宜、教材を指定し購読します。				
補助教材					
参考書					

A 科目の概要	
<p>私たちの建築・生活環境を改めて考えてみることに、それを表現してみることに、そして新たにデザインしてみることを学び取るための授業です。建築の言葉と作法と考え方を学習します。</p> <p>空間と生活との対応・空間機能のプログラミング・建築の人間に与える心理的影響・人体尺度と空間・建築の社会的な機能への要求・文化への対応などさまざまです。授業では、多様な視点から、建築を計画する時の基本的な姿勢を学習するための講義・討論・演習を行います。</p>	
B 到達目標	
<ul style="list-style-type: none"> 1. 建築の言葉を理解する 2. 建築の作法を理解する 3. 建築の考え方を理解する 	
C 長岡高専の学習・教育目標との対応	(D)
D 履修上の注意	
創造的な行為です。計画のために必要となる多様で柔軟で正確な視点を、この授業から学習されることを期待しています。	
E 評価方法	
<p>到達目標 1 に関し、授業への積極的な参加と授業での発表・発言を毎回評価して、成績とする。(33%)</p> <p>到達目標 2 に関し、授業への積極的な参加と授業での発表・発言を毎回評価して、成績とする。(33%)</p> <p>到達目標 3 に関し、授業への積極的な参加と授業での発表・発言を毎回評価して、成績とする。(33%)</p> <p>定期試験【0%】(前期中間(0%), 前期末(0%), 後期中間(0%), 後期末(0%)) その他の試験【0%】、レポート【0%】、その他【100%】(上記方法による評価)の割合で達成目標に対する理解の程度を評価する。60 点以上を合格点とする。</p>	

F 授業計画・内容		
週	内 容	備 考
1	(建築計画のオリエンテーション) 講義の進め方と講義概要を説明する。	
2	(自分の住処のイメージマップ) 住居の平面図を描く。	
3	(住居のスケール) 空間のスケール感の基本を獲得することとスケールの意味を学習する。	
4	(かたちの知覚) 建築計画の中で使われるスケールの知覚・知覚像と歪みについて学習する。	
5	(かたちの知覚) 形態の修正・ゲシュタルト理論・錯視・遠近法に関する理論と実例を学習する。	
6	(かたちの技術) 人体尺度・規模・距離・D / Hに関する建築計画での理論を学習する。	
7	(かたちの技術) グリッド・基準線・平面分割等、建築の計画で使われているかたちの技術を学習する。	
8	(集合住宅の実例1) フランス・ドイツ・オーストリアの諸外国で計画されている集合住宅の空間的な特徴を学習する。	
9	(集合住宅の実例2) 日本で計画された特徴ある集合住宅事例の空間的な特徴を討論する。	
10	(集合住宅の実例3) 日本で試みられている集合住宅の計画的な意味を討論する。	
11	(集合化の手法1) 集合住宅の住戸群の計画、住棟形式の手法を概説し、その計画的な意味を学習する。	
12	(集合化の手法2) シングル・コモン・リビングアクセス等アクセス手法を概説し、その計画的な意味を学習する。	
13	(集合化の手法3) 集合住宅の空間計画の手法を概説し、その計画的な意味を学習する。	
14	(都市の課題) 「市街地の雁木通りの再開発・再生」について、雁木の機能と使われ方を討論する。	
15	(都市の課題) 積雪地域の特有な雁木は、街区の環境整備計画で保存・維持されるべきものか、現代的な空間に変わるためには不必要なものなのかを検討する。	